

# 「農地まわりの鳥調査」ご協力をお願い

日ごろから、魅力あふれる農村環境づくりに格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、例年、資源向上活動（共同）の「生態系保全」に該当する取り組みとして、生きもの調査の実施をご提案しているところですが、今年度は「**農地まわりの鳥調査**」にご協力をお願いいたします。

この調査は、各組織・集落で取り組みを実施される際の参考としていただくとともに、農地まわりの食物連鎖・生態系ピラミッドの上位に位置する鳥類の生息状況を把握することで、自然環境の状態を評価し、今後の市の施策に活かすことをねらいとしています。

全市的に共通の調査を実施することで、より正確な情報の収集や効果的な取り組みにつなげることができます。資源向上活動に取り組みされていない組織や独自の取り組みを計画されている組織につきましても、実施可能な範囲でご協力いただきますようお願いいたします。

## 1. 調査・報告の方法

① 調査対象の鳥について、集会時での聞き取りや現地調査などによって、目撃情報を集めてください。  
なお、今回の報告対象は、今年4月1日以降の目撃情報とします。

② 目撃情報をもとに、集落地図上にシールを貼ってください。

シールを貼る単位は、1羽・巣1個ずつでなく、おおむね見渡せる範囲や同じ建物を目安とします。  
シールが不足する場合や縮尺が合わない場合は、手書きでも差し支えありません。

③ お渡しした封筒に必要事項を記入し、シールを貼った集落地図を入れて、  
**9月30日（木）まで**に、農村環境課または各支所までご提出ください。



## 2. 備考

- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、集会等を自粛されている場合は、代表者・役員ら少人数での調査など、実施可能な範囲でのご協力をお願いいたします。
- ご報告いただいた情報の一部は、別途実施している市民いきもの調査「みんなの近くにいませんか？『市の鳥』大調査！」にも活用し、市ホームページ等で公開します。
- 本調査票は、より多くの方から情報提供いただけるよう、資源向上活動を実施されていない組織にも配布しております。趣旨をご理解いただき、実施可能な範囲でご協力いただきますようお願いいたします。

## 3. この調査についてのお問い合わせ

丹波篠山市 環境みらい部 農村環境課（本庁舎2階26番窓口） 担当：菅原、山口、岡

TEL：079-552-5013 FAX：079-552-0619 MAIL：kankyo\_div@city.sasayama.hyogo.jp

# 調査対象の鳥

今年度の調査対象種は、このたび市の鳥に選定された「ツバメ」と「カワセミ」、県の鳥「コウノトリ」、国の鳥「キジ」の4種です。それぞれ、今年4～9月の間、地図上で見たことがある場所にシールを貼ってください。ただし、ツバメは「巣」を見かけた場所とします。

## ツバメ（巣）

市の鳥

### いるところ

家や店の屋根の下、田んぼなど

### 特徴・農地まわりの環境との関わり

春に南の国から帰ってきて、家の屋根の下などに巣をつくります。秋になると、大きくなった子どもと一緒に南の国へ渡ります。ツバメが巣をつくる家は幸せになれるという言い伝えもあります。

農繁期に田んぼや畑などにいるウンカなどの害虫を食べることから「益鳥」といわれています。また、田んぼの泥や枯れ草が巣づくりの材料になっています。



ツバメ（おわん型）



コシアカツバメ（とっくり型）



イワツバメ（つぼ型）



イワツバメやコシアカツバメの巣を見つけた時も同様にシールを貼ってください。

## カワセミ

市の鳥

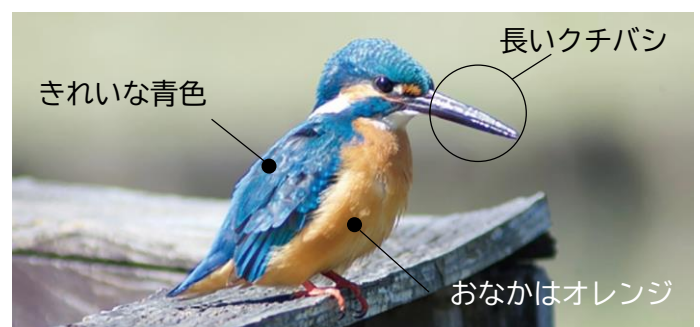
### いるところ

河川、水路、ため池など

### 特徴・農地まわりの環境との関わり

水辺にすむ小鳥で「飛ぶ宝石」と呼ばれています。スズメより少し大きいぐらいで、水辺の木の枝に止まって魚を探し、ダイビングして捕まえる魚とり名人です。土手に横穴を掘って巣をつくります。

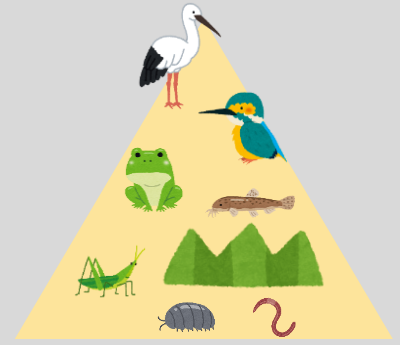
エサとなる小魚やエビなどが生息でき、巣穴を掘ることができる土手があるなど、豊かな水辺環境があることを示す「指標生物」です。



## 《鳥類を調べることでわかること》

生きものが「食べる・食べられる」関係でつながっていることを「食物連鎖」と言い、それを図にしたものを「生態系ピラミッド」と言います。

農地まわりを、食物連鎖の生態系ピラミッドとして捉えたとき、鳥類は上位に位置します。つまり、鳥類がいるということは、必然的に、下位の生きものがたくさん暮らしていることとなります。鳥類を調べることは、自然環境の状態を把握することにつながります。



## コウノトリ

県の鳥/特別天然記念物

### いるところ

田んぼ、ため池、河川の浅瀬など

### 特徴・農地まわりの環境との関わり

サギに似ていますが、先端だけが黒い翼、長くちばし、ピンク色の足で見分けられます。一度野生絶滅しましたが、人工繁殖や野生復帰が進められ、市内への飛来も増えています。

ドジョウやフナなどの魚類、ヘビ、カエル、などをたくさん食べるため、エサとなる生きものが豊かな環境でしか暮らすことができません。



個体識別用の足環

2020年6月4日 新荘地区に飛来したコウノトリ

## キジ

国の鳥

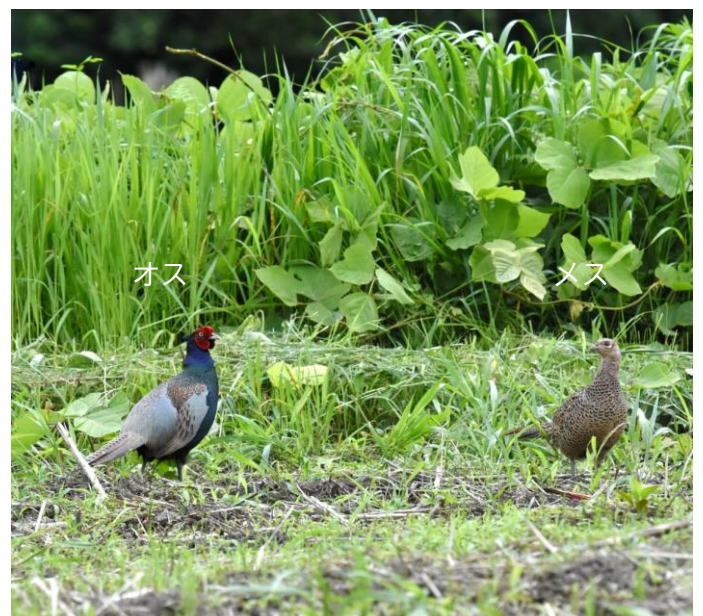
### いるところ

田んぼ、畑、草地、雑木林など

### 特徴・農地まわりの環境との関わり

里に近い明るい草地にすんでいます。オスは濃い緑色の体で、繁殖期になると「ケーン」と鳴き、翼を羽ばたかせて、メスに求愛します。

地上を歩いて草の葉や実、昆虫などを食べ、地面の窪みに枯れ草を集めて巣をつくるため、草刈りなどの管理が適度に行われた環境が必要です。



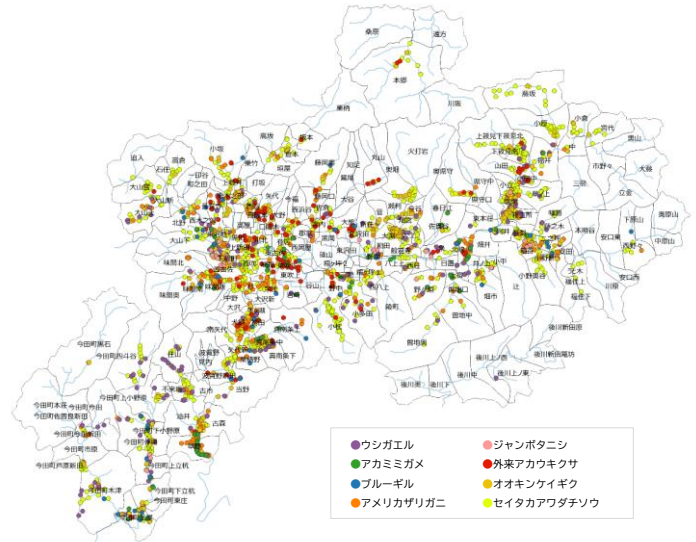
# 令和2年度「農地まわりの外来種調査」結果のご報告

昨年度は「農地まわりの外来種調査」の実施をご提案したところ、83組織142集落から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。調査の結果を報告いたします。

## 1. 調査結果の概要

ウシガエル、アカミミガメ、ブルーギル、アメリカザリガニ、ジャンボタニシ、外来アカウキクサ、オオキンケイギク、セイタカアワダチソウの外来種8種について、分布情報や被害実態を整理しました。

アメリカザリガニなど、多くの集落で昔から確認されている種がある一方、オオキンケイギクやアカミミガメなど、現在進行形で分布を拡大していると考えられる種もあることがわかりました。



## 2. 今後の取り組み

調査結果を踏まえ、外来生物パトロール員による現地調査、特に対策が必要な箇所での駆除、啓発チラシの作成・配布などに取り組んでいます。また、自主的に外来種の駆除に取り組まれる方については、補助金や物品の貸し出し等により支援を行っています。いったん侵入した外来種の影響は長期的になる場合が多く、今後も粘り強く対策に取り組んでいきます。

### 《ジャンボタニシにご注意！間違いにもご注意を！》

スクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）は、南米原産の巻貝で、昭和56年に台湾から食用として日本へ導入されました。その後、逃げ出したり捨てられたりしたものが増え、各地に広がっています。発生地では、生育初期のイネを食害するなど、大きな問題になっています。

昨年度の調査では、12集落から目撃情報が寄せられましたが、いずれも後日実施した現地調査では確認されませんでした。現時点では、**ジャンボタニシは市内に侵入していないと考えられます。**

被害防止には、侵入早期の対策が重要です。イネを食害しない在来種のタニシと見分けることは難しいですが、最大の特徴である**「ピンク色の卵」**を見つけた時は、速やかにご連絡ください。



左：ジャンボタニシ 右：在来種



イネの株元や水路壁にピンクの卵を産む